

生きる力はきっと、出会いをとおして、関係の中に身を置いて、おしゃべりやつながりの結び目から、工夫や知恵をだしあったりしながら、育まれていく・・・。

薬物依存、若者の労働問題、釜ヶ崎で活動するおっちゃんや高齢者など、当事者として、今日的な取り組みを行っているゲストとともにお互いのことばを聴き合い、表現をたのしみながら、ちょっとした工夫のすべをみつけたり、あらたなアクションのきっかけとなるような、ゆるやかな出会いの場をつむぎます。



栗原 彬 Kuribara Akira

(政治社会学者、立教大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授、ボランティア学会代表)  
1936年栃木県宇都宮市に生まれる。幼児期を足利市で過ごし、渡良瀬川と「蓑笠つけられたお上人」(田中正造)の物語になじむ。少年期、肺門リンパ線炎で余命半年の宣告、引きこもりで馬の絵を描く。東京大学を卒業。商事会社に4か月つとめる。大学院の修士論文は「民衆宗教大本の国際行動」。1960年代に、ニューヨーク留学を含めて、永い学問の修行時代を送る。ニュースクールで、川端実(実)に師事、絵を描く。60年代安保闘争、60年代半ば反戦ティーチン、69年学園闘争に遭遇。立教、明治、立命館等の大学、大学院で教員をつとめる。専攻は政治社会学。水俣、および山形県高島(有機農業の里)との関わりを深める。ゼミでは、仮面劇ワークショップ、高島での縁農合宿など。  
NPO法人水俣フォーラム代表、日本ボランティア学会代表。著書に『存在の現れの政治—水俣病という思想』(以文社)、(編著)『証言 水俣病』(岩波新書)、『歴史とアイデンティティ』(新曜者)、(編著)『講座 差別の社会学』全4巻(弘文社)、(共編著)『越境する地知』全6巻(東京大学出版会)ほか。



倉田めば Kurata Meba

(大阪ダルクセンター長、Freedomコーディネーター、神戸学院大学学際機構客員教授)  
尾道市生まれ。大阪写真専門学校卒業後ヌード・カメラマンに。その後フリー。1993年、薬物依存回復施設「大阪ダルク」設立。ピア・ドラッグ・カウンセラーとして、薬物依存者のサポートを続ける。2001年より薬物関連問題の新たな社会資源を創出するための市民団体「Freedom」を支援者とともに設立。4度の精神科病院入院歴を持つ薬物依存当事者。



くびくびカフェ kubi-kubi café

京大の時計台前を陣取って、くびになった元図書館職員の井上昌哉と小川恭平が開いているカフェです。くびとくびでくびくびカフェなんです。一年もやっているうちに、コーヒーの腕もあがり、おいしいと評判に!(薪ストーブを使って自家焙煎)  
最初はストライキでした。去年の2月、京都大学が非正規の職員を一律5年でくびにするという、ひどい使い捨てに反対して、座り込みを開始したのが始まりです。  
<http://extasy07.exblog.jp>



かま凹バンド Kamaboko-Band

釜ヶ崎で暮らし、働くおっちゃんたちと音楽が好きな若者がいっしょになって活動するバンド。釜ヶ崎の暮らしを題材としたオリジナル曲多数。



紙芝居劇むすび Picture-card-show MUSUBI

大阪・西成にある釜ヶ崎に暮らす74歳以上のおじさんたちが繰り出す紙芝居「劇」。ほのぼのとした語りと斬新な小道具や歌などが飛び出すしな。野宿生活、リストラなどを乗り越え、人生の深い味わいを携えてステージに立つ。「命かけてまっせ!」  
<http://musubiproj.exblog.jp/>



原田麻以 Harada Mai

(ココルーム、カマンメディアセンター スタッフ)  
1985年東京生まれ、東京育ち 2008年明治学院大学卒業後、東京港区にて会社員として勤務中、ココルームへ「さまざまな人が集まる場づくり」の勉強へ向かう。2009年5月よりココルームスタッフとなり、「カマンメディアセンター」立ち上げに参画。

タイムスケジュール

- 16:00 はじめに 原田麻以(cocoroom)
- 16:05 1部 活動報告  
「この社会で、自ら生き抜くためのアクションについて」  
倉田めば(freedom)、くびくびカフェ
- 16:55 休憩 10分
- 17:05 2部 うたパフォーマンス  
「釜ヶ崎で生きる、むすぶ、うたう」  
出演:かま凹バンド、むすび トーク聴き手:栗原彬
- 17:45 3部 トークセッション 「この社会で生きる力」  
倉田めば(freedom)、くびくびカフェ、栗原彬
- 18:25 おわりに 原田麻以(cocoroom)
- 18:30 終了予定



※当センターには駐車場がございませんので公共機関をご利用ください。